

日本交通

「陣痛タクシー」

事前登録するだけで簡単に手配が可能

日本交通は、陣痛時に最優先でタクシーを手配して妊婦を病院まで送る「陣痛タクシー」を2012年5月に都内初のサービスとして開始した。迎えに行く場所、かかりつけ病院、出産予定日などを事前に登録することで、簡単にタクシーを手配できる仕組みだ。21年11月には、累計配車件数が10万件を超えた。コロナ禍においても毎月1千件の配車があるなど、欠かせない存在として定着している。

陣痛時のタクシー送迎は従来から受け付けていたものの、タクシーを利用する際の不安を感じる利用者が多かった。そのため、同社では顧客登録システムと組み合わせ、サードパーティとして明示することで妊婦によるタクシー利用を促進し、核家族や自動車を保有していない家庭でも安心して出産に臨める環境を整備した。

陣痛タクシー専用の電話回線を用

累計配車は10万件超



意し、常時オペレーターが待ち機して年中無休で対応する。事前に迎えに行く住所への道案内することなく迅速に確実に目的地に送ることができると特徴だ。また、乗務員全員が助産師監修の「妊産婦搬送時の注意事項と対応」講習会を受講し、車内に緊急対応マニュアルを常備しているなど、的確に対応できるようにしている。

サービス開始から約9年半で累計配車件数は10万件を突破。サービス登録者数も約30万人にのぼる。都内の妊婦の2人に1人が登録していることになる。19年の実績では、都内の妊婦5人に1人が陣痛タクシーに乗車して出産した計算だ。さらに、首都圏の妊娠・出産経験のある20〜30歳代女性へのアンケートでは、86%が「陣痛タクシーを知っている」と回答したようにドア・ツー・ドアで安心して移動できるサービスとして広く認知されている。

陣痛タクシーの登場で、都内の救急車の適正利用にもつながるといった波及効果もある。全国で同様のサービスが広がるきっかけになっている。

〈受賞者コメント〉安全安心を支える社員をはじめ、関係する皆様にお礼申し上げますと共に、心より感謝いたします。陣痛タクシーは2012年のスタートから配車が10万件を超え、多くの方々に支えられタクシーの役割が進化しました。暮らしに不可欠な移動インフラとして今後も社会に貢献してまいります。